



火乃用心

夫 風 高 火 災 津 浪

風呂だんろ煙突ふ火の元は
主人自ら吟味あやられよ
考ず無茶お飛出す上句に
風向と地理をあんぎするは
萬兩の神輿を造る金有らば
小さいぼんお各町おかけ
泉水や堀井戸有らば潰さずお
永く大防の神と仰ぐん
ろうそふツ提灯大風災
細子を入れて長押おかけ

電 線 身 産 持 出 宝 物 生 命

昔から生命あつた物なねと
いふ真実を見限り大切
エ土蔵やレ金庫といふもの
多二の宝は身あけけ出よ
常々目つたやうおきあてお
非常持出す物は何
身支度なだぶあうのかかり物
手おのみ水か氷砂糖か
うろたそ電燈線お引かり
服のまねし命とらるあ

これ用心書を目つくとお小はりおき日々用心
する方は地しんと火事の災難を免れ玉ふべし

東京市下谷區
下根岸町廿五番地
石井方
伊勢辰立退所

地震之用心

地形 建築 火 災 津 浪

より土やおきお上お住む人は
地震の時おあふいと知れ
細柱屋のやねお大かた
あなま勝ある家ぞあふいと
火鉢ガスすて火の元最重
あふいと消せ地震する時
平日の用心足らぬあふいと者
尾お打られ堀お潰さる
来る時は地震間もよく来るも
のぞ津浪くともす怖る

避難 薬 二 階 逃 場 震 返

ゆり返し本ゆりよりお小さ
餘でツかち尻ツこりあり
頑太お長火鉢をぞ指おとれ
まふかの時も出るおはあふいと
棟の下お三角の明きあれば
二階のけお下よりおはあふいと
リウサお塩酸キハツ油と
火を出すものはあふいとぬやう
屋外おかけお越すおはあふいと
其の時この程お後へ